

新柏クリニック

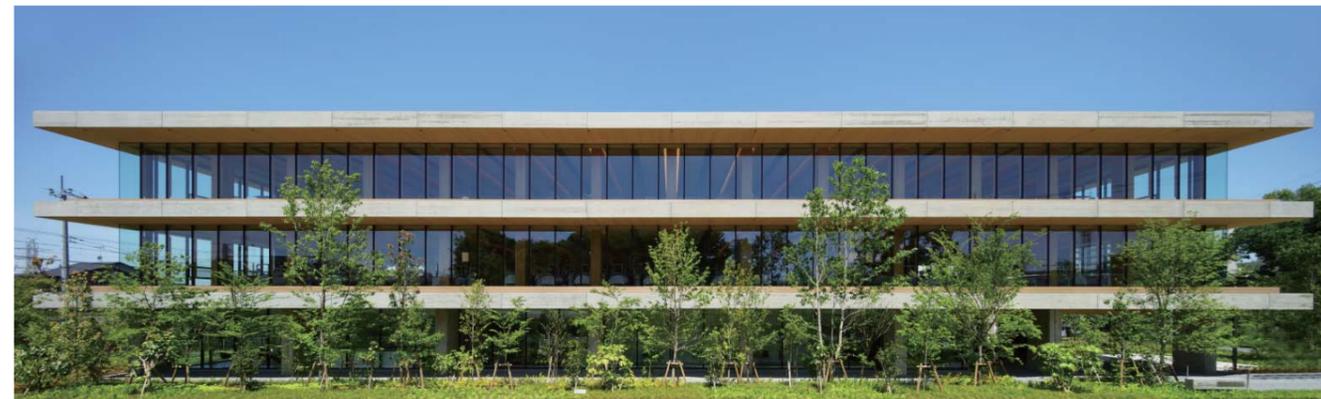
SHINKASHIWA CLINIC

No. 13-047-2017作成

新築
病院

発注者	木村靖夫	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社 竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 竹中工務店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

森林浴のできるクリニック



本森林浴のできるクリニックは千葉県柏市の郊外に位置する透析120床の診療所である。豊かな地下水を透析水として、南側に広がる台地の緑を景観としてそれぞれ取り込み、「森林浴のできるクリニック」をテーマに、開放性の高い新しい透析クリニックを目指した。透析に日々通われる患者さんが、からだだけでなくこころも浄化されるような設えの施設としている。透析室は南側緑地の景観をのぞむ2、3階に配置し開放性の高い木造空間を実現、耐震要素となるRC造は、都市に隣接する北側にコアゾーンとして集約し、住宅地からの視線をコントロールするなど、都市構造に呼応した機能配置と構造形式を採用した。



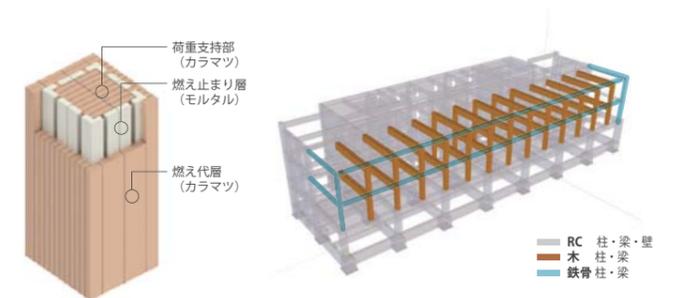
森と街のエッジに位置する建築地



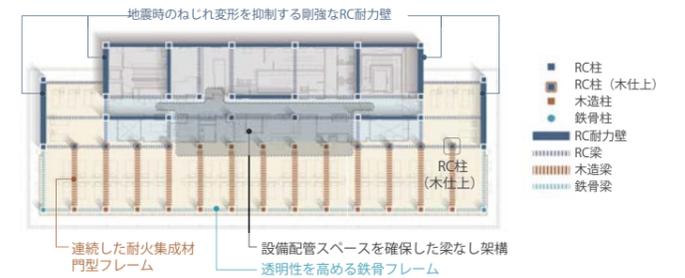
透析室内部より

新しい防耐火技術による耐火木造

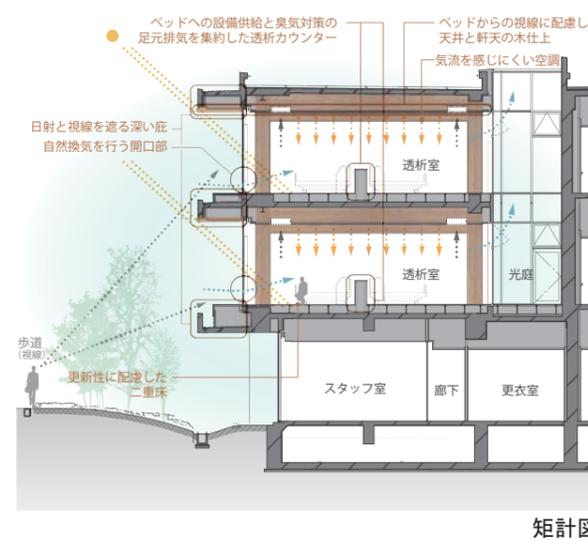
看護のしやすさと患者の安全安心のため約60mの一室空間とした透析室は、耐火集成材「燃エンウッド®」の柱・梁を門型状に連続して並べ、樹木が美しく連立する森のような内観とした。「燃エンウッド®」は芯材と表面の燃え代層に国産カラマツを用いており、木のぬくもりに触れられる1時間耐火構造材である。新柏クリニックでは構造体として145㎡の「燃エンウッド®」を使用した。これは50年のカラマツ約210本分、0.6haの森林に相当、RC造に対して20%のCO₂削減効果となり、100tのCO₂を固定することができた。透析室の外端木造柱をつなぐ梁と隅部の柱を小断面 鉄骨フレームとし、耐震要素となるRCフレームと壁面は北側に集約するなど、適材適所の構造形式を採用することで透析室からの開放性を高めた。廊下を無梁化し設備メインルートを確認した他、透析室の全面二重床とあわせて将来の更新性を担保している。



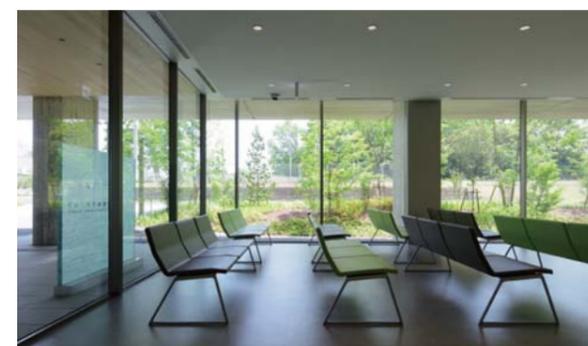
燃エンウッドの柱モデル 門型木フレームを支える架構モデル



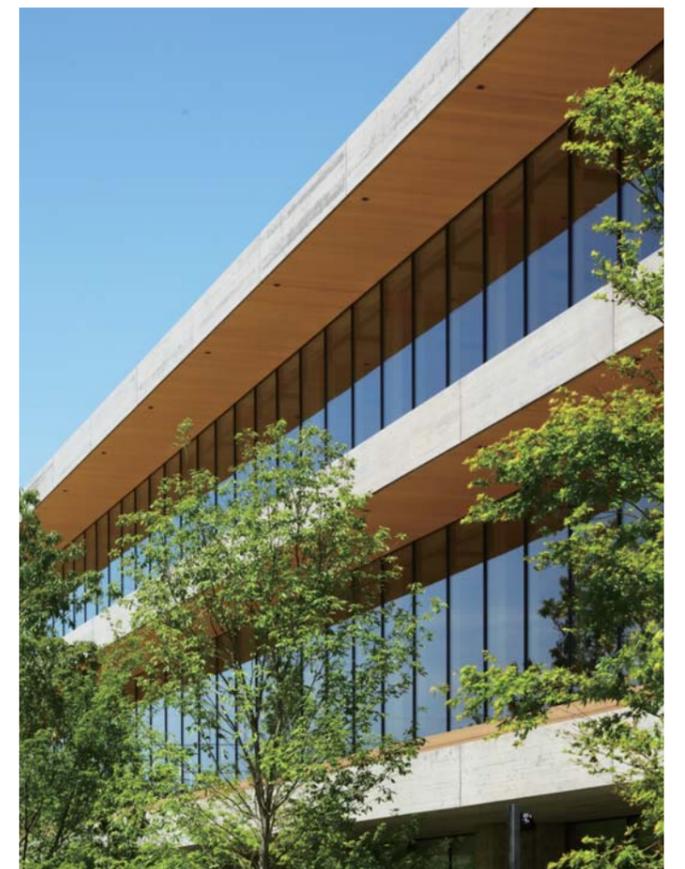
構造ダイアグラム



矩計図



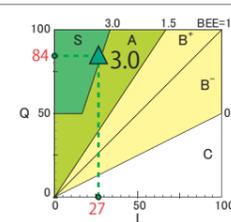
待合室



木の軒天でつくられた水平ライン

設計担当者
 統括：菅原努/建築：吉岡有美、葛和久、石本明子/構造：岩間和博、落合洋介、設備/小野敦史、那須律男、廣田聡史/インテリア/太田憲次、光永麻衣子/外構：山田雅之、鈴木康平、赤岩麻里子

建物データ	所在地 千葉県柏市	省エネルギー性能	BPI (モデル建物法) 0.75 %	CASBEE評価	Sランク
竣工年	2016年	BEI (モデル建物法) 0.85 %	LCCO ₂ 削減 9 %	BEE=3.0	BEE=3.0
敷地面積	3,097㎡			2014年度版	自治体提出
延床面積	3,131㎡				
構造	RC造・W造・S造				
階数	地上3階				



- 主要な採用技術 (CASBEE準拠)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (燃エンウッドの活用、外構緑化、立地特性の把握と計画方針の設定、生物資源の管理)
 - Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (近隣街区へ配慮した配置計画と外装材設定)
 - Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (緑の緩衝領域、防犯対策、敷地内温熱環境の向上)
 - LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (BPIm性能向上、Low-eガラス)
 - LR1. 2. 自然エネルギー利用 (トップライト、自然換気、ナイトパーズ)
 - LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減 (持続可能な森林から産出された木材、リサイクル材、躯体と仕上材の分別)